

HiKOKI

取扱説明書

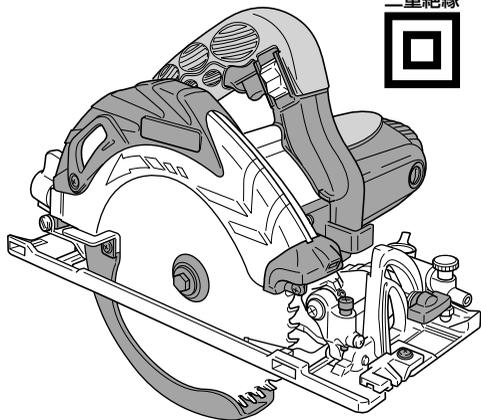
用途

- 各種木材の切断
- 各種化粧板、薄物樹脂板、軟質新材材の切断

深切り丸のこ	145 mm C 5MBY
深切り造作丸のこ	165 mm C 6UBY
深切り電子丸のこ	145 mm C 5MVY
深切り電子造作丸のこ	145 mm C 5UVY 165 mm C 6UVY

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

二重絶縁



C 6UVY

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

はじめに

電動工具の安全上のご注意	1
二重絶縁について	4
本製品の使用上のご注意	4
各部の名称	7
仕様	8
標準付属品	9
別売部品	10

準備

ご使用前の準備	11
ご使用前の点検	13
各種調整方法について	15

使い方

キックバックについて	20
のこ刃の取りはずし・取付け	21
直角に切断する	23
傾斜切断する	25
ガイドの使い方	27
ダクトアダプタの使い方	28

その他

保守・点検	29
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。**
ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。**
電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ 子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。

⚠ 警告

- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードを点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
 - 延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⚠ 警告

- 15** 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用しない、または、修理・調整・点検する場合。
 - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- 16** 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- 17** 不意な始動は避けてください。
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- 18** 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- 19** 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- 20** 損傷した部品がないか点検してください。
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
 - スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- 21** 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。
- 22** 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に回マークで表示してあります。純正品以外の部品と交換したり、間違って組立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、深切り丸のこ / 深切り造作丸のこ、深切り電子丸のこ / 深切り電子造作丸のことして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。

表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。

- ② 保護カバーは、絶対に固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。

- のこ刃が露出していると、けがの原因になります。
- 回転摺動部およびバネに粘着物、切り粉がたい積し、保護カバーが瞬時に閉まらなくなることがあります。

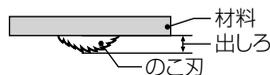
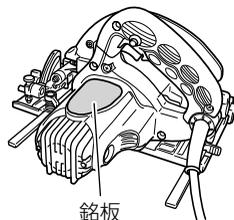
- ③ のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。また、歯底径が C 5MBY、C 5MVY/C 5UVY は 118 mm 以下、C 6UBY、C 6UVY は 134 mm 以下ののこ刃は使用しないでください。

保護カバーのおおいが不完全となり、けがの原因になります。

- ④ 切断する材料は、安定性の良い台に置いてください。台が不安定であると、けがの原因になります。

- ⑤ 切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。のこ刃がはさみつけられると、けがの原因になります。

- ⑥ 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性の良い台を設けてください。また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。このような台がないと、けがの原因になります。

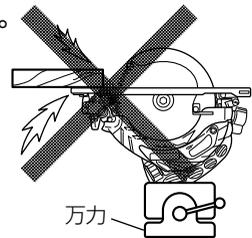


警告

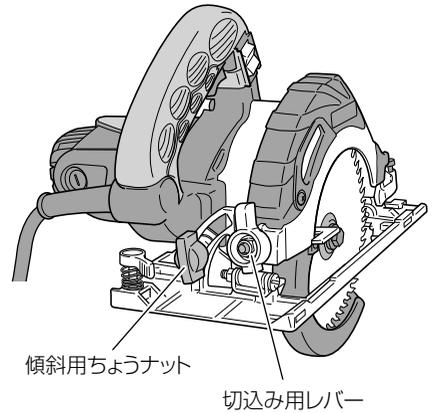
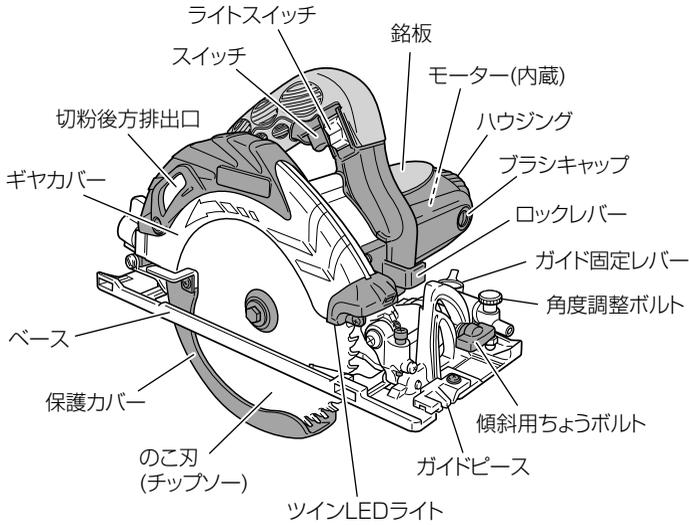
- ⑦ 使用中は、機体を確実に保持してください。
確実に保持していないと、機体が振れ、けがの原因になります。
- ⑧ 使用中は、のこ刃や回転部、切りくずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。
- ⑨ 切断途中で、のこ刃を回転させたまま機体を戻さないでください。必ずスイッチを切り、回転が完全に止まってから機体を持ち上げるようにしてください。
回転させたまま機体を戻したり、持ち上げると、強い反発力が生じ、けがの原因になります。
- ⑩ ベンチスタンドを使用する場合は、スタンドを固定してください。
また、接触予防装置（保護カバー）を必ず取付けてください。
ベンチスタンドがぐらついたり、接触予防装置がないと、けがの原因になります。
- ⑪ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
そのまま使用すると、けがの原因になります。
- ⑫ 誤って落としたり、ぶつけたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

⚠️ 注意

- ① 刃物類（のこ刃など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でない、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
のこ刃が破損し、けがの原因になります。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
- ④ 作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
異常があると、思わぬ動きをして、けがの原因になります。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
機体を落としたりし、けがの原因になります。
- ⑥ 切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。
強い反発力が生じ、けがの原因になります。
- ⑦ 材料に釘などの異物が付いていないことを確認してください。
刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。
- ⑧ 切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上にのせたまま作業しないでください。
手を切ったり、コードを切断し、感電の恐れがあります。
- ⑨ 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。
感電の恐れがあります。
- ⑩ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。
不意の接触などで、けがの原因になります。
- ⑪ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑫ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
けがの原因になります。
- ⑬ 機体を作業台や床に置くときは、のこ刃の回転が完全に停止して、保護カバーで、のこ刃がおおわれていることを確認してください。
機体が自走して、けがの原因になります。



各部の名称



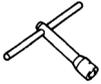
イラストはC 6UVY です

仕 様

形 名	C 5MBY	C 6UBY
使 用 電 源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V	
最大切込み深さ	57 mm	65 mm
の こ 刃 (チップソー)	外径 145 mm × 穴径 20 mm	外径 165 mm × 穴径 20 mm
	刃数 52	刃数 72
使用できるのこ刃	外径 145 mm ~ 147 mm 穴径 20 mm	外径 160 mm ~ 165 mm 穴径 20 mm
無 負 荷 回 転 数	5,500 min ⁻¹ {回/分}	
全 負 荷 電 流	12 A	
消 費 電 力	1,150 W	
モ ー タ ー	単相直巻整流子モーター	
質量(コードを除く)	2.8 kg	3.1 kg
コ ー ド	2 心キャブタイヤケーブル 5 m	

形 名	C 5MVY	C 5UVY	C 6UVY
使 用 電 源	単相交流 50/60Hz 共用 電圧 100 V		
最大切込み深さ	57 mm	56 mm	65 mm
の こ 刃 (チップソー)	外径 145 mm × 穴径 20 mm		外径 165 mm × 穴径 20 mm
	刃数 52	刃数 64	刃数 72
使用できるのこ刃	外径 145 mm ~ 147 mm 穴径 20 mm		外径 160 mm ~ 165 mm 穴径 20 mm
無 負 荷 回 転 数	4,100 min ⁻¹ {回/分}		
全 負 荷 電 流	12 A		
消 費 電 力	1,150 W		
モ ー タ ー	単相直巻整流子モーター		
質量(コードを除く)	2.5 kg	2.6 kg	2.8 kg
コ ー ド	2 心キャブタイヤケーブル 5 m		

標準付属品

形名・仕様 標準付属品	C 5MBY C 5MVY	C 6UBY(SG) C 5UVY(S) C 5UVY(SG) C 6UVY(S) C 6UVY(SG)	C 5MBY(SG) C 5MVY(SG)	C 6UBY(N) C 5UVY(N) C 6UVY(N)	C 5MBY(N) C 5MVY(N)
① チップソー 	1 枚 スタンダードタイプ	1 枚 スーパーチップソー 〔ブラック〕	1 枚 スーパーチップソー 〔ブラック〕	(別売)	(別売)
② ボックススパナ 	1 個	1 個	1 個	1 個	1 個
③ ロングガイド 	(別売)	1 個	(別売)	1 個	(別売)

別売部品 (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください)

警告

別売部品を使用の際も保護メガネを使用してください。

のこ刃

のこ刃やチップソーにつきましては、カタログを参照してください。
またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



ガイド固定レバーセット

C5MBY、C5MVYでロングガイドを取付ける時に必要です。



ガイド

ガイドバー 1本の丸のこ用ガイドです。



(P.27「ガイドの使い方」参照)

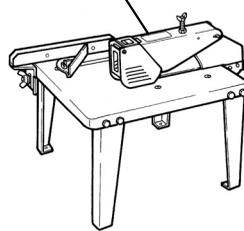
丸のこベンチスタンド

(接触予防装置付)

PS7 - BS3

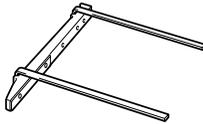
丸のこで、定置作業をする場合に用います。

接触予防装置(保護カバー)



ロングガイド

ガイドバー前後2本のロングガイドです。



(P.27「ガイドの使い方」参照)

ダクトアダプタ

切粉排出口に取付けて、集じん機に接続します。



(P.28「ダクトアダプタの使い方」参照)

注 C5MBY、C5MVY、C5UVYは使用できません。

ご使用前の準備

●作業場は整頓をし、明るくしてお使いください

●漏電しゃ断器の設置をおすすめします

本製品は二重絶縁構造ですので、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さの、できるだけ短いコードをご使用ください。

右表は使用できるコードの太さと、最大の長さです。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。



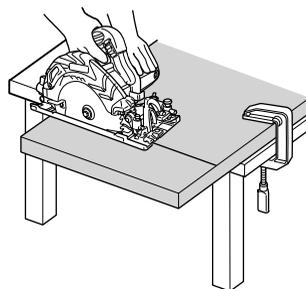
警告

延長コードは損傷のないものを用意してください。

コードの太さ (mm ²) (導体公称断面積)	最大の長さ (m)
1.25	10
2	15
3.5	30

●作業台（木製）を用意します

- のこ刃が材料の下面より出ますので、作業台の上に置いて材料を切断します。
- 材料の切り残し側を、しっかり押さえてください。
- バイスで固定するなどしてしっかり押さえれば、両手で作業することができます。



○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前の点検

⚠ 警告

使用前に次のことを確認してください。手順①、②、④～⑥については、電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。

- 注**
- 切断トイシは使用できません。
 - ベース面のフッ素コーティングは、木材以外を切断するとフッ素コートがはがれ、ベースの滑りが悪くなります。

1 スイッチが切れていることを確かめます

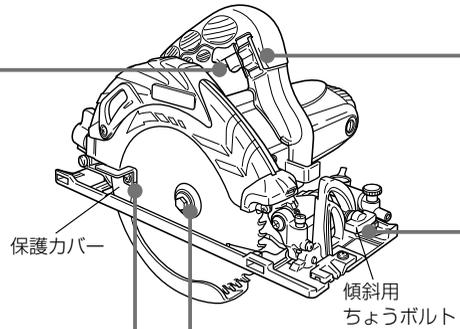
- スイッチが入っているのを知らずに、電源プラグをコンセントにさし込むと、不意に動き思わぬけがの原因になります。

2 電源を確かめます

- 必ず銘板に表示してある電源でご利用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に高速になり、のこ刃や機体が破壊される恐れがあります。
- 直流電流、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

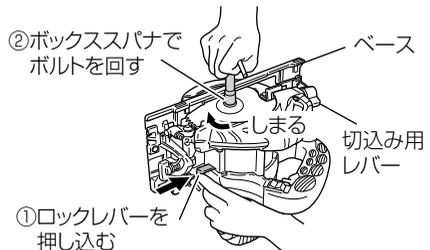
3 コンセントを確かめます

- コンセントがガタついたり、電源プラグが抜けるようだと修理が必要です。そのまま使用すると危険です。電気工事店にご相談ください。



4 のこ刃の締付けを確かめます

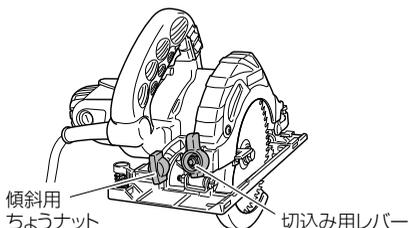
- ロックレバーを押し込みながら、付属のボックススパナでボルトを時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。その状態のまま締付けます。
- ボックススパナでボルトを締付ける際、ベースが邪魔になるときは切込み用レバーを緩めベースを動かし切込み深さを浅くしてください。



- 注** のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻っていることを確認してください。

5

切込み用レバー、 傾斜用ちょうボルト、 傾斜用ちょうナットの 締付けを確かめます



6

保護カバーの動きを 確かめます

- 保護カバーは、身体がのこ刃に触れるのを防ぐものです。必ずのこ刃をおおうように円滑に動くことを確認してください。

7

ブレーキがかかることを 確かめます

- この機体はスイッチを切ると同時に、のこ刃の回転にブレーキがかかる構造になっています。ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。

8

ライトの点灯を確かめます

- ライトスイッチの「ON」側を押すと点灯し、「OFF」側を押すと消灯します。
- ライトは刃先の左右両側を照射します。
(刃先に影が出来ないツイン LED)

⚠警告

- のこ刃の締付けボルト、切込み用レバー、傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナットが十分に締まっていることを確認してください。ゆるんでいると、けがの原因になります。
- 保護カバーは、絶対に固定しないでください。のこ刃が露出していると、けがの原因になります。

- 注** ④ ロックレバーが元の位置に戻らない場合、⑥ 保護カバーが円滑に動かない場合、⑦ ブレーキが正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⚠注意

ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
機体を落としたりし、けがの原因になります。

- 注** • ライトのレンズ部に付着したごみは、柔らかい布などでふき取り、ライトのレンズ部に傷が付かないように注意してください。
ライトのレンズ部に傷が付くと、明るさが低下する原因になります。
- ライトのスイッチに、取付けてある防じん用カバーを傷つけたり、破いたりしないように注意してください。
 - 溶接機のすぐ近くで作業すると回転が不安定になることがありますので、溶接機のすぐ近くでは使用しないでください。

各種調整方法について

⚠ 警告

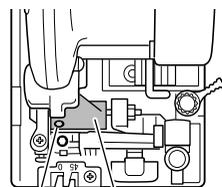
調整の際は万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

● 平行度の微調整

ベース側面とのこ刃の平行度を平行度調整ねじで微調整できます。
工場出荷の際に調整してありますが、万一、平行度が狂っていた場合は次のように調整してください。

注 平行度調整後、切込み深さの調整を行うと、平行度が若干狂う場合があります。切込み深さを調整後、平行度の調整を行ってください。
(P.23 ①参照)

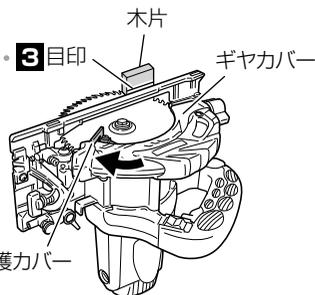
1 ギヤカバーヒンジ部の固定ねじをお手持ちの六角棒スパナ (2.5 mm) でゆるめます。



ギヤカバーヒンジ部

1 5 固定ねじ

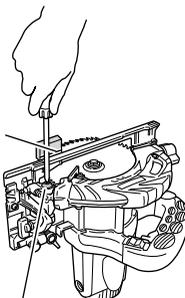
2 保護カバーをギヤカバーの中に引き込みます。



3 のこ刃のベース後方側に木片を当て、ベース側面位置に目印を付けます。

2 保護カバー

4 目印を付けた木片をベース前方側に移動し、平行度調整ねじをお手持ちのプラスドライバーで回して目印がベース側面に合うようにします。



4 目印

5 調整後、**1** でゆるめた固定ねじをしっかりと締付けます。

4 平行度調整ねじ

●切込み用レバーの調整

切込み用レバーの締付け具合を調整できます。

切込み用レバーはストッパに当たる位置から約 15° の範囲内でしっかり固定されるのが正常です。ストッパに当たる位置まで締めても、ベースが上下してしまう場合は次のように調整してください。

- 1 この刃をはずし、切込み深さを最大にして、安定した床の上に丸のこを置きます。
(P.21「この刃の取りはずし・取付け」参照)

- 2 M6 ナットを付属のボックススパナでゆるめます。

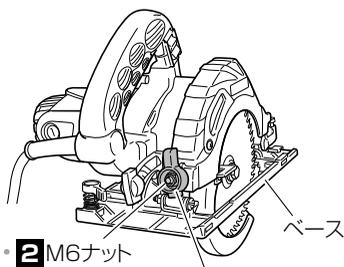
注 M6 ナットは締付けすぎると、切り込み用レバー等の破損の原因になります。M6 ナットの締付けすぎにご注意ください。

- 3 切込み用レバーをストッパに当たるまで回し、その位置で M6 ナットを軽く締付けます。

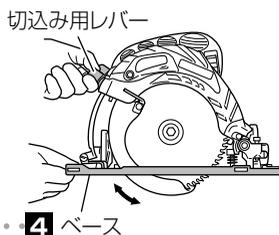
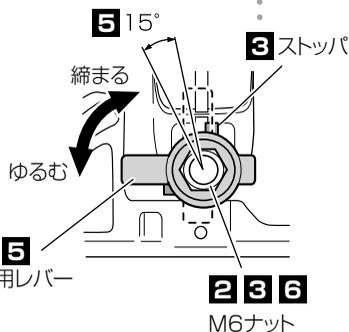
- 4 切込み用レバーを「ゆるむ」の位置にし、ベースを上下させ、スムーズに動くことを確認します。

- 5 切込み用レバーを「締まる」の位置にし、ストッパに当たる位置から約 15° の範囲内で、ベースがしっかり固定できることを確認します。

- 6 ベースの固定が十分にされない場合は、上記 **3** を再び行ってください。また、切込み用レバーをゆるむ位置にしてもベースがスムーズに上下しない場合は、M6 ナットを少しゆるめてください。



3 4 5 切込み用レバー



注 切込み用レバーの調整後は、ベースがしっかり固定されることを確認してください。
ベースがしっかり固定されないと、けがの原因になります。

● 傾斜角度の微調整【C 6UBY、C 5UVY/C 6UVY のみ】

90°と45°の傾斜角度（ベースとのか刃の角度）を微調整できます。

工場出荷の際に調整してありますが、万一、角度が狂っていた場合は次のように調整してください。

90°と45°では調整する角度調整ねじ、M4ねじ、定規角度が異なりますので注意してください。

1 傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナットをゆるめます。
(45°の場合はM4ねじもゆるめます。)

2 ベース底面とのか刃に定規を当てて角度を出し、傾斜用ちょうボルトを軽く締めます。
(右図の定規は90°の場合を示しています。)

90°の場合

3 角度調整ボルトをベベルピースにしっかりと締付けます。

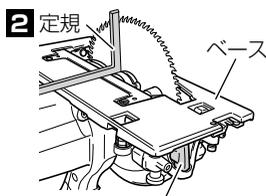
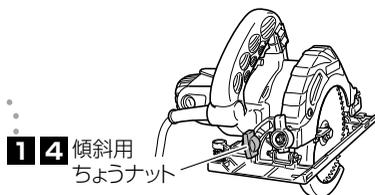
4 角度調整ナットをベース上面に突き当たるまで図に示す方向にスパナ等で回し、角度を出します。

5 調整後、傾斜用ちょうボルトと傾斜用ちょうナットをしっかりと締付けます。

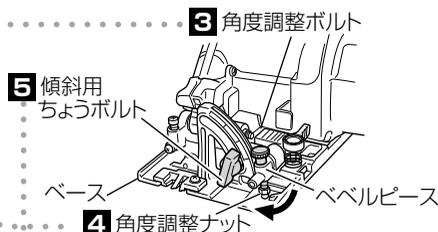
45°の場合

3 角度調整ねじの先端がベースに突き当たるまで、角度調整ねじを回してからM4ねじで固定します。

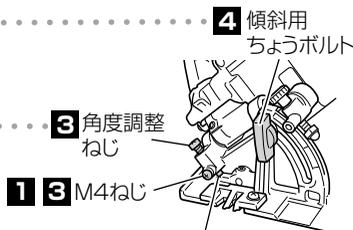
4 調整後、傾斜用ちょうボルトと傾斜用ちょうナットをしっかりと締付けます。



1 2 傾斜用ちょうボルト



90°の場合



45°の場合

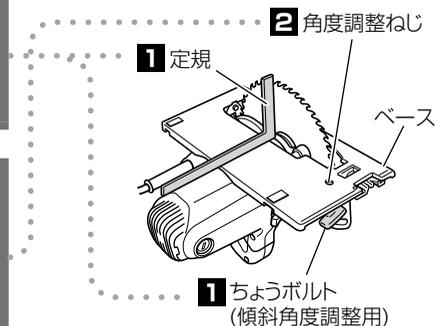
●直角度の微調整【C 5MBY、C 5MVYのみ】

直角度（ベースとのご刃の角度）を微調整できます。

工場出荷の際に調整してありますが、万一、角度が狂っていた場合は次のように調整してください。

1 ちょうボルトをゆるめ、ベース底面とのご刃に定規を当てて直角度を出し、ちょうボルトを軽く締めます。

2 角度調整ねじの先端がベースの金属製部品に当たるまで、お手持ちの六角棒スパナ（3 mm）で角度調整ねじを回し、ちょうボルトをしっかり締めます。

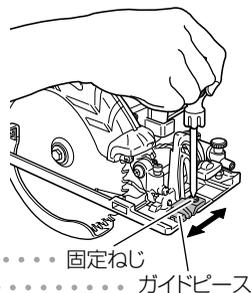
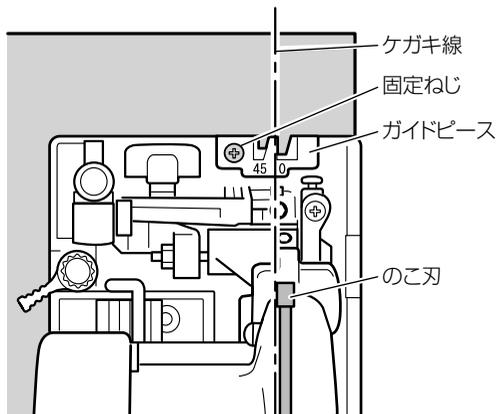


●ガイドピースの微調整

ガイドピースの取付け位置を微調整できます。

工場出荷の際には、ガイドピース切欠部の直線部分をのこ刃の刃部側面に合わせてありますが、万一、取付け位置が狂っていた場合は、ガイドピースの固定ねじをゆるめ、位置を調整してください。

固定ねじをゆるめ、ガイドピースを左右に動かし位置を調整してください。



キックバックについて

キックバックとは

回転中ののこ刃に、急激に大きな負荷がかかり、回転数が急速に低下したとき、反発によって材料もしくは機体が作業者側にはじき飛ばされる現象です。

キックバックを発生させる原因

キックバックを発生させる原因としては

- ① 材料によるのこ刃の挟み込み
- ② 曲線切りなど、機体をこじめる作業
- ③ 材料にのこ刃の刃先を当てた状態での起動

他にも、劣化したのこ刃の使用や硬い未乾燥材の切断、過度に深い切込み設定、過大な押し付けなど、複合的な原因があります。

キックバックを避けるには

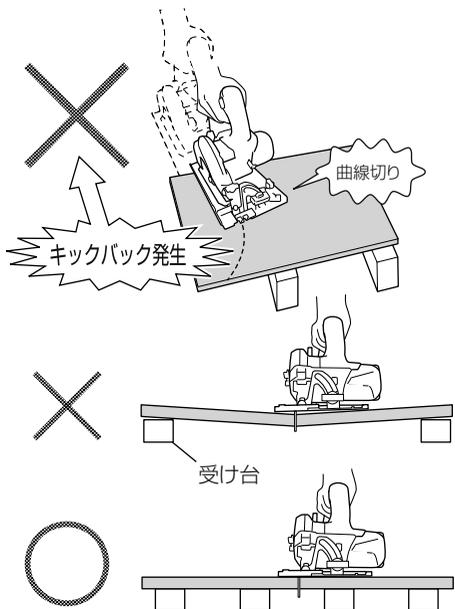
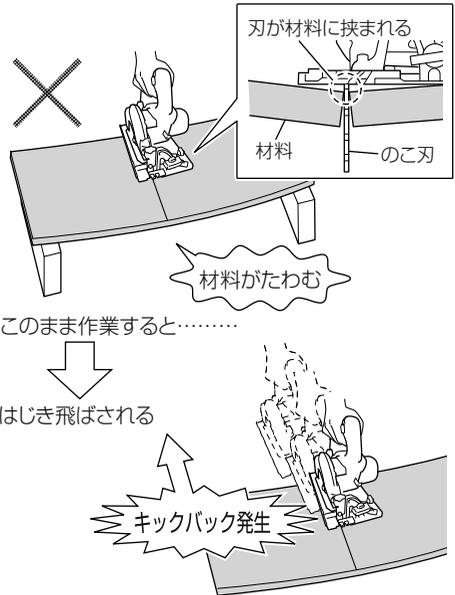
材料によるのこ刃の挟み込みは、キックバックが発生する最大の原因です。

材料の設置方法を注意することで、のこ刃の挟み込みを少なくすることができます。

材料の下に受け台を適切に設置します。

切断する材料が長い場合、端部に近いところに受け台を設置すると、切断中に材料がたわんで、のこ刃を挟み込みます。

切断する部分に近い位置に受け台を設置するか、切り落とし側にも同じ高さの受け台を設置してください。



のこ刃の取りはずし・取付け

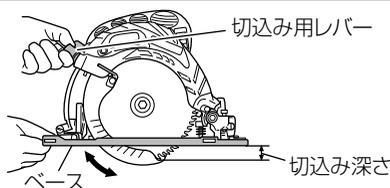
⚠警告

- のこ刃の取りはずし・取付けの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
思わぬ事故のもとになります。
- のこ刃の取りはずし・取付けの際は、安定した台や床の上で行ってください。
- ボルトの着脱は付属のボックススパナで作業してください。
付属以外の工具を使用すると、締過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

工場出荷の際には、のこ刃が取付けてありません。お買い上げ後はじめてご使用になる時は「のこ刃の取りはずし」手順①②を行いボルト、ワッシャ (B) を取りはずします。次に「のこ刃の取付け」手順③からの要領でのこ刃を取付けてください。

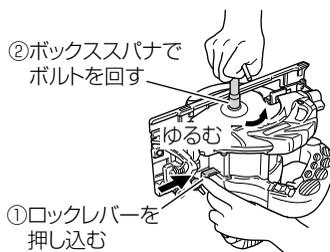
● のこ刃の取りはずし

- ### 1 切込み用レバーをゆるめ、切込み深さを最大より少し浅くします



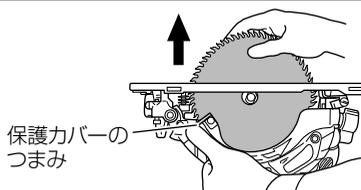
- ### 2 ボルトとワッシャ (B) をはずします

- ロックレバーを押し込みながら、付属のボックススパナでボルトを反時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。この状態でのこ刃軸が固定されます。
- ロックレバーを押し込んだままボックススパナを反時計方向に回し、ボルトとワッシャ (B) をはずします。



- ### 3 のこ刃を取りはずします

- 保護カバーのつまみを持って、保護カバーをギヤカバーの中に引き込み、のこ刃を取りはずします。



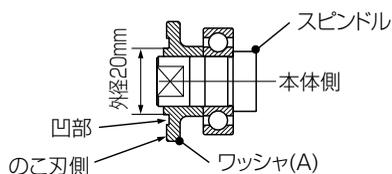
● のこ刃の取付け

1 切込み用レバーをゆるめ、切込み深さを最大より少し浅くします

- スピンドルや、ワッシャ (A)、ワッシャ (B) に付いている切りくずをよくふき取ってください。(P.21 の ❶ 参照)

2 ワッシャ (A) の凹部をのこ刃側にして取付けます

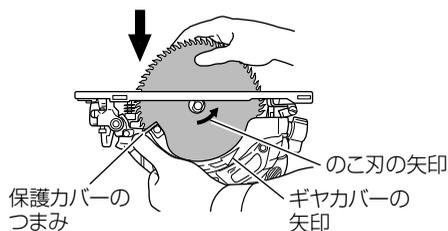
- ワッシャ (A) は、穴径 20 mm ののこ刃だけが取付けできるようになっています。



- 注**
- ワッシャ (A) の取付け方向を誤ると、のこ刃を取付けることができません。
 - ワッシャ (A)、ワッシャ (B) は必ず機体に取り付けてあるものを使用してください。
 - のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻っていることを確認してください。

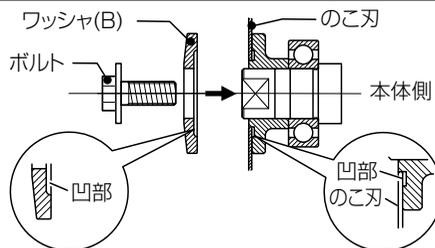
3 のこ刃を取付けます

- 保護カバーのつまみを持って、保護カバーをギヤカバーの中に引き込み、のこ刃の矢印がギヤカバーの矢印方向と一致するようにのこ刃を取付けます。



4 のこ刃を固定します

- ワッシャ (B) の凹部をのこ刃側にして取付け、ロックレバーを押し込みのこ刃軸を固定して、ボックススパナでボルトを時計方向に十分に締付けます。(P.13 の ❷ 参照)



5 切込み深さを調整し、切込用レバーを締付けます (P.23 の ❶ 参照)

ロックレバーが元に戻っており、のこ刃が円滑に回転することを確認します。

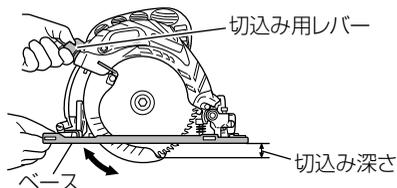
直角に切断する

警告

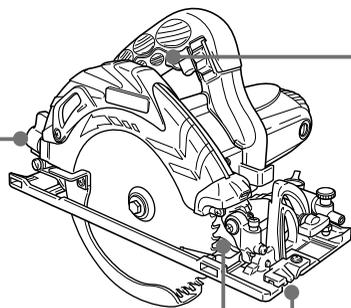
万一の事故を防止するため、①～③はスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて調整してください。

1 切断する材料の厚みに応じて切込み深さを調整します

- 切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。



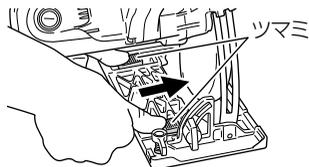
- C5MBY、C5MVY/C5UVYの保護カバーにはのこ刃外径145mm用、C6UBY、C6UVYの保護カバーにはのこ刃外径165mm用の目盛がついています。目盛線は3mm(1分)刻みです。
- ベースとのこ刃が直角の時は、この目盛を目安に切込み深さが調整出来ます。



2 刃口板を調整します

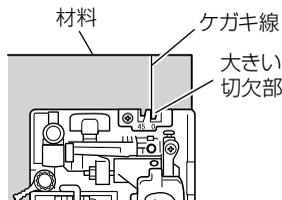
[C6UBY、C5UVY/C6UVYのみ]

- ベースの上側に取付けられたツマミ2個を同時に動かして、刃口板を移動し、ベース刃口幅を最小の位置にします。
- 小幅材の切断時に、切断した木片がベースの刃口に入り込まず、安定した作業ができます。



3 ケガキ線に合わせます

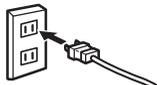
- 材料の上に機体(ベース)をのせ、ケガキ線にガイドピース切欠部を合わせます。大きい切欠部(0°傾斜時使用)を目安にしてください。



●ガイドを使って切断する際にはP.27を参照してください。

4

電源プラグをコンセントにさし込みます

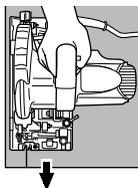


- 注** ●切断を始める前に、のこ刃の回転が最高速になるようにしてください。フッ素コーティングされたベース面(SG仕様品)は、滑りが良いためモーター部に無理がかかりやすくなっています。機体を強く押しすぎないでください。

5

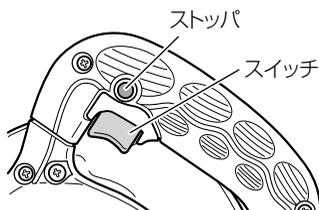
スイッチを入れ、ゆっくり前方に進めます

- のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終るまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



●連続運転について

スイッチをいっぱいに引いた状態でストップを押すと連続運転になります。スイッチを切るときは、もう一度スイッチを引き、ストップがはずれてから指をはなします。



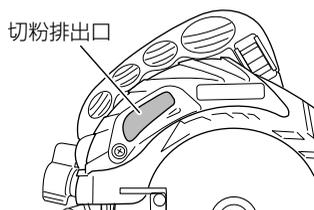
⚠警告

- 作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用中に異常音や異常振動など機体の調子に異常を感じたときは、直ちにスイッチを切り、点検・修理に出してください。
- 切断中に機体をこじったり、強く押しすぎないでください。機体をまっすぐにゆっくり進めるようにしてください。反発力を受け、けがの原因になります。また、モーター部に無理がかかるとともに、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使用方は絶対にしないでください。けがの原因になります。

●切粉の排出について

切断された材料の切粉は、切粉排出口から出されますが、材料の種類・切断のやり方等によりましては、まれに切粉がつかまる場合があります。

その際は、まずのこ刃をはずし、やわらかい針金等でつまった切粉を取り除いてください。



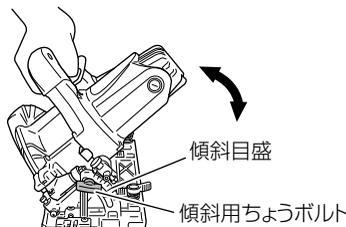
傾斜切断する

1

傾斜角度を調整します

〔+45°方向の調整〕

- 傾斜用ちょうボルトとベース後部の傾斜用ちょうナットをゆるめ、傾斜角度を調整します。のこ刃をベースに対して、最大45°まで傾けることができます。



- ちょうボルト締付け部に5°刻みの傾斜目盛が付いています。正確な角度で切断したい場合はベースとのこ刃の角度を定規で測定してください。

〔-5°方向の調整〕 [C6UBY、C5UVY/C6UVYのみ]

- 切込み用レバーをゆるめて切込み深さを浅くした後、角度調整ボルトを図に示す方向に回すことで、最大-5°まで傾けることができます。



角度調整ボルトの回し数	逆傾斜角度
5～6回	約-3°
8～9回	約-5°

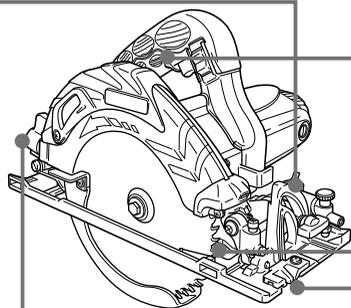
注 -5°の方向に傾ける際には、必ず切込み用レバーをゆるめ、切込み深さを浅くしてください。

ハウジングとベースの間に手をはさみ、けがの原因になります。

- ガイドを使って切断する際にはP.27を参照してください。

警告

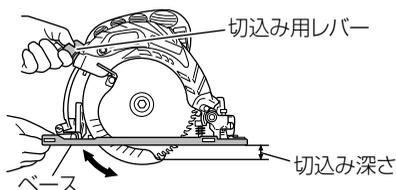
- 万一の事故を防止するため、①～④はスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて調整してください。
- ①調整後、傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナットを十分に締付けてください。
ゆるんでいると、けがの原因になります。



2

切込み深さを調整します

- 切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。



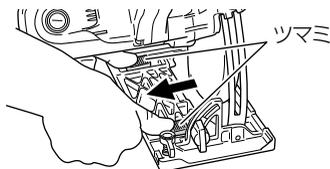
注 保護カバーに付いている目盛線は、傾斜切断のときは使用できません。切込み深さを調整するときは、のこ刃の切込み深さを実測してください。

3

刃口板を調整します

[C6UBY、C5UVY/C6UVYのみ]

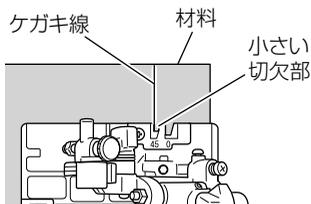
- 傾斜切りの場合、刃口板は最大刃口幅の位置で使用します。
- ベースの上側に取り付けられたツマミ 2 個を同時に動かして、刃口板を移動し、ベース刃口幅を最大の位置にします。



4

ケガキ線に合わせます

- 45° 傾斜するときには 材料の上に機体(ベース)をのせ、ケガキ線にガイドピースの小さい切欠部を目安に合わせます。



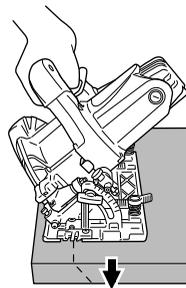
5

電源プラグをコンセントにさし込みます

6

スイッチを入れ、ゆっくり前方に進めます

- のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終るまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



警告

- 作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用中に異常音や異常振動など機体の調子に異常を感じたときは、直ちにスイッチを切り、点検・修理に出してください。
- 切断中に機体をこじったり、強く押しすぎないでください。機体をまっすぐにゆっくり進めるようにしてください。反発力を受け、けがの原因になります。また、モーター部に無理がかかるとともに、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方は絶対にしないでください。けがの原因になります。
- 刃口板を途中の位置で使用しないでください。傾斜切りの際、保護カバーに触れて、正常な作動ができなくなり、けがの原因になります。

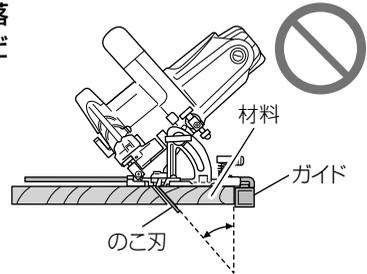
注 切断を始める前に、のこ刃の回転が最高速になるようにしてください。フッ素コーティングされたベース面(SG仕様品)は、滑りが良いためモーター部に無理がかかりやすくなっています。機体を強く押しすぎないでください。

ガイドの使い方

⚠ 警告

ガイドを使用する際、のこ刃とガイドの間に切り落した材料がはさまるような傾斜切断はしないでください。

思わぬけがの原因になります。



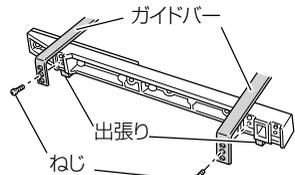
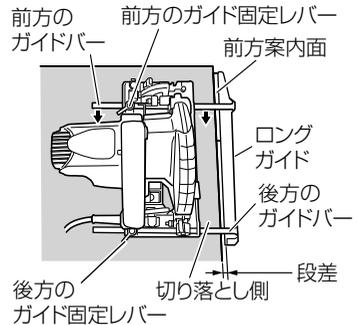
ロングガイド / ガイドは材料の端面に対して平行に切断するとき 사용합니다。

● ロングガイド [C 6UBV、C 5UVY/C 6UVY に標準付属] の取り付け方

ロングガイドは通常のガイドに比べ、材料の端面に対して、より安定した平行度で切断することができます。

通常 of 取り付け

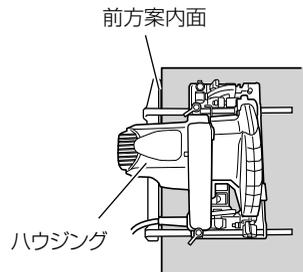
- ① 前後のガイドバーをベース側面 (切り落とし側) の穴に通し、ロングガイドを左右に動かして切断位置を調整します。
- ② 前方のガイドバーを矢印側に押し付けながら、最初に前方のガイド固定レバーを締付け、次に後方のガイド固定レバーを締付け、ガイドバーをしっかりと固定します。
- ③ ロングガイドの前方案内面を材料に沿わせて切断します。のこ刃のはさみ込み防止のため、ロングガイドの案内面後方に段差を設けてあります。



ハウジング側への取り付け

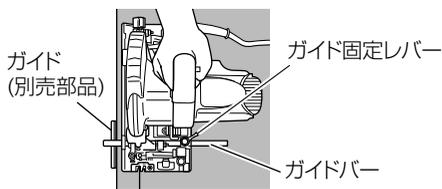
前後ガイドバー (2本) を取り付け直してご使用ください。

- ① ロングガイドのねじ (2本) を取りはずします。
- ② ロングガイドの出張りが下にくるようにガイドバー (2本) を取り付け直します。これにより、前方案内面が前側になります。



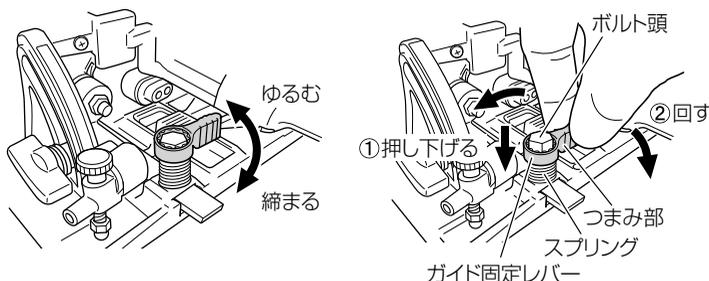
●ガイド（別売部品）の取付け方

- ① ガイド（別売部品）のガイドバーを、ベース側面（切り落とし側）前方の穴に通します。
- ② ガイドを左右に動かして切断位置を調整し、前方のガイド固定レバーを締付け、ガイドバーをしっかりと固定します。



●ガイド固定レバーのノブ位置調整

ガイド固定レバーを押し下げると、ボルト頭との合わせがはずれて自由に回転します。ロングガイド/ガイドをしっかりと固定した後は、ガイド固定レバーを押し上げて、切断作業時のじゃまにならない位置につまみ部を回転させてください。

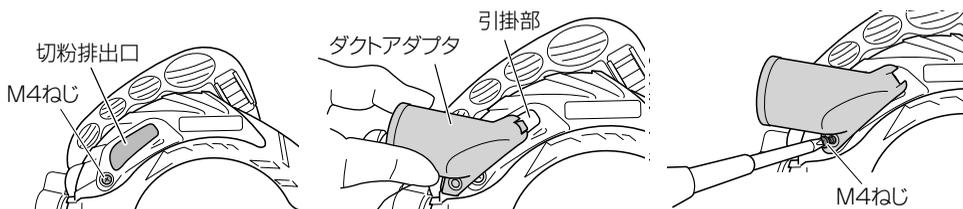


ダクトアダプタ（別売部品）の使い方

集じん機と接続する際、切粉排出口にダクトアダプタを取付けて使用します。集じん機に接続する際、集じん機側のホース内径がφ25 mm のものが接続できます。その他のホースサイズの場合は、別売のホースアダプタが必要ですのでお買い求めの販売店にお問い合わせください。

取付け方

- ① ダストカバーの切粉排出口横に取付けてある M4 ねじ 1 本をはずします。(M4 ねじは、ダクトアダプタ取り付け時に使用するため、なくさないでください。)
- ② ダクトアダプタの引掛部を切粉排出口前方に差込みます。
- ③ ①ではずした M4 ねじでダクトアダプタを締付けて固定します。



保守・点検

⚠ 警告

点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

● のこ刃の点検

切れ味が悪くなったまま使用すると、モーターに無理がかかり作業の能率も落ちます。新品と交換してください。

⚠ 警告

切れ味の悪くなったのこ刃はそのまま使用しないでください。
無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

● 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。
ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。
異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

● 清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布を良く絞ってからふいてください。
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

● 保護カバーの作動点検と保守

保護カバーは、いつも円滑に作動するようにしてください。
なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。

● 機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- 注**
- お子様の手が届いたり、持ち出せる場所
 - 軒先など雨がかったり、湿気のある場所
 - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
 - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

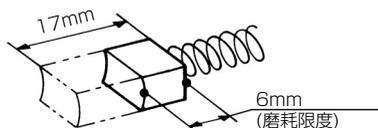
●カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度(5mmまたは6mm ぐらい)になりましたら新品と交換してください。

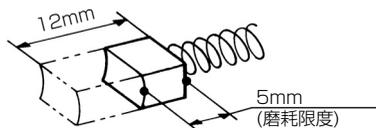
また、カーボンブラシはごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

注 ●新品のカーボンブラシと交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシをご使用ください。指定外のカーボンブラシを使用するとブレーキがかからないことがあります。

C 5MBY、C 6UBY



C 5MVY/C 5UVY、C 6UVY

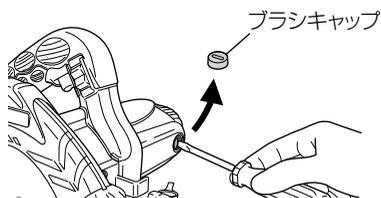


●新品交換後の運転でカーボンブラシから臭いが出ますが、故障ではありません。5分間ほど無負荷運転をすることによって、臭いは少なくなります。

●カーボンブラシの交換方法

1 ブラシキャップをはずします

マイナスドライバーなどで、ブラシキャップを反時計方向に回してはずします。



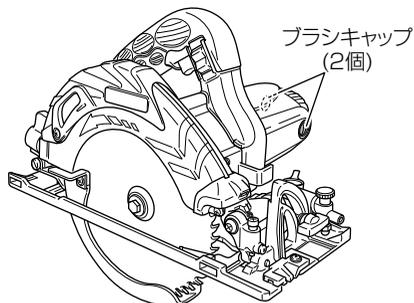
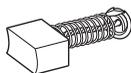
3 新しいカーボンブラシを取付けます

ブラシホルダの角穴に合わせてカーボンブラシを指で押し込みます。

4 ブラシキャップを取付けます

ブラシキャップでカーボンブラシを押しさえ込みながらマイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。

2 カーボンブラシを取り出します



ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 **0120-20-8822**

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認い
ただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>